

3. 読み聞かせ・大型紙芝居

＜読み聞かせ＞

毎年本校では「読み聞かせボランティア」を募り、子どもたちに本や紙芝居を読み聞かせて頂いています。ボランティアを引き受けて下さるのは、お父さん、お母さん、そしてお子さんが既に小学校を卒業している地域の方々など、たくさんの方にご協力頂いています。

昨年度は、51名（うち、学年学級委員さん16名）の方々にご協力をいただき、全部で8回実施することができました。

ボランティアの皆さんが読んで下さる作品は、個人蔵書・市立図書館・学校図書室等の蔵書などまちまちで、内容も戦争に題材を採った作品もあれば、色鮮やかな最新の絵本もあり、子ども達は、毎回たいへん楽しみにしています。

内容が多岐にわたるため、いろいろな道徳教育の内容項目とかかわることになりますが、熱心な読み聞かせに引き込まれ、時間を忘れて作品の世界に浸っている子ども達の姿は真剣そのものです。

ボランティアの方々は、読み聞かせた後、子ども達の反応について意見交換をしたり、記録したりして今後に生かせるようにしているほか、子ども達からも感想を綴った文章を送って、感謝の気持ちを表して、交流を図っています。



＜大型紙芝居＞

子どもたちに感動の心を持ってほしいと願い、毎年PTA本部役員を中心に「大型紙芝居」の上演会を行っています。昨年度は9月9日（水）朝の1時間を使って2つの紙芝居が上演されました。この活動は、道徳教育の内容項目からはD「感動・畏敬の念」に該当する活動と考えられます。

毎年、大型紙芝居制作のため、希望する保護者によって1学期から作業を始め、紙芝居一枚を模造紙2枚分に拡大し、段ボールで裏打ちをします。そして、夏休みに入ると、3日～4日かけて、拡大した紙芝居にポスターカラーで色を塗っていきます。その後、保護者や教員の中から希望者を募り、読み手の配役や引き手、音響などの担当を決めて上演会を行います。

昨年度の上演会では、群馬県のゆるキャラ「ぐんまちゃん」が登場し、子どもたちを湧かせる場面もありました。

毎年恒例となっているPTA事業ですが、全校児童が上演会で感動を味わうことができます。



4. 伝統遊び

今年の1月29日（金）、名和地区の区長さんはじめ名和地区ボランティア協会の方々に依頼して、低学年児童を対象に伝統遊び体験会を実施しました。この活動は、昔ながらの遊びを通して、子どもたちが地域の伝統に触れたり、地域の人たちの交流をしたりすることを目的とした、「地域に根ざした特色ある学校作り活動」として、生活科の2時間を充てて実施されました。今回は、こま回し、まりつき、はねつき、折り紙、お手玉、あやとり、けん玉の7つの遊びのコーナーを準備し、地域の方々に付いていただきました。そして、1年生・2年生の児童がいくつかのグループに分かれて、体験したい伝統遊びのコーナーを巡回して、いろいろな遊びを体験しました。



核家族化の進む中、世代間の触れ合いが少なくなり、それに伴って昔ながらの遊びが親子孫と受け継がれにくくなっているため、ほとんどの子どもたちが伝統遊びを新鮮に受けとめ、興味深そうに体験をしていました。また、身近な地域の方々に対するコミュニケーションも新鮮だったようで、積極的に話しかけている児童が目立ちました。また、指導いただいた皆さんも、低学年児童との触れ合いが楽しかった様子で、終始にこやかに楽しそうに指導してくださいました。



道徳教育の内容項目からは、C「国や郷土を愛する態度」が中心となる活動であると考えられますが、それ以外にも、指導してくださる方々に挨拶をしたり、会話をしたり、感謝をしたりすることによる心の交流を持つことができたように思います。

5. 地域クリーンアップ作戦

本校地区には、中学校が1校、本校を含め小学校が2校、幼稚園が1園あります。この4つの学校園と町内の住民が協力をして、年に一回の清掃作業を実施しています。この清掃作業のねらいは、子どもたちに対する環境美化やボランティア意識の育成、社会貢献への意欲の高揚や、地域に対する思いやりおよび地域の一員としての心を育成することを目的として行われています。ただし、発達段階等を考慮して、幼稚園児は園内の清掃、小学校低学年児童は校庭の清掃を行い、それ以外の児童生徒が自分たちの町内の公園や神社、集会所などの清掃を行います。昨年度は、12月9日（水）午後3時から一時間の計画で行われました。



クリーンアップ作戦当日は、町内清掃の児童は一時帰宅して各町内の集合場所に集まり、中学生を中心として清掃活動に取り組みました。清掃場所では、各小中学校の教員が分担し共に清掃活動を行いました。また、各町内の区長さんや住民役員の方が清掃道具を提供したり、清掃作業の説明をしたりしてくださいました。子どもたちは、ゴミを拾ったり、ほうきで落ち葉を掃いたりしながら、熱心に清掃活動に取り組みました。また、校庭を清

掃る児童は校庭の各所に分散して、草を取ったり、落ち葉を掃いたり、やはり熱心に作業に取り組みました。



道徳教育の内容項目からは、C「勤労・公共の精神」、C「国や郷土を愛する態度」が中心となる活動であると考えられますが、それ以外にも、普段は経験できない年上の中学生との会話をしたり、協力したりすることによる心の交流が持てたり、地域の人たちとの協働による所属感なども味わうことができたように思います。

6. PTA共催「人権講演会」

毎年、PTA と共催で12月に人権講演会を開催しています。27年度は、元パラリンピック車椅子バスケット選手の「塚本京子さん」を講師としてお迎えし、「車椅子バスケットとともに」の演題でご講演をいただきました。以下に児童の感想を1部掲載します。



☆今日は、名わ小学校に来ていただきありがとうございました。わたしは、京子さんのお話を聞いていて、とてもびっくりしたところやなっとくしたところもありました。とくにわたしがおぼえているのことは「車を車いす用の車をとめるところにとめては、だめ」というところはよく分かりました。<注：車いすを車から出して乗りうつるためには、車のドアを全開にしなくてはならないので、それだけのスペースが必要だと言うことを教えて下さいました>(2年)

☆私は、車椅子バスケットというのを初めて知りました。車いすで動くだけでもとても大変なことだと思うのに子ども不自由でない私たちと同じように生活をしていると聞いてびっくりしたし、すごいと思いました。楽しそうにバスケットをしている塚本さんはとてもかっこよかったですし、こんな夢中になれることに出会えてうらやましいです。私は、私は体が不自由な人に親切にしていこうと思いました。塚本さんのようにたくましくかっこよくいろんなことに挑戦していきたいです。本当にありがとうございました。(6年)

7. 命を育む講座

毎年、5年生の2学期の学習参観で助産師会やPTAのご協力を得て「命を育む講座」を実施しています。命の尊さについて保護者さんと共に考える機会にしています。

☆ぼくの始まりは見えにくいくらい小さくておなかの中で大きくなって元気に生まれてたぼくは、それだけでえらいと思いました。「生きているだけで100点満点」という言葉はとてもうれしい言葉で、これからも忘れません。家に帰ってからお母さんにグーしてもらいました(ないしょ)。



<模型の赤ちゃんを抱いて・・・>

お母さんは「こんなに大きくなってくれてありがとうございます。」と言っていました。それから、ぼくがおなかのいた時のエコーと3D写真を家族で見ました。<中略>お母さんはいたかっただろうなと思いました。それでもうれしいお母さんは不思議です。命が生まれるということは「きせき」だと思います。ぼくは、この命をいつまでも大切に元気に生きようと思います。(5年)



<お腹の中で段々大きくなっていく様子>



